

研究の経緯

令和4年度 研究の成果と課題

(1) 低学年分科会	(2) 中学年分科会	(3) 高学年分科会
第1学年 1組 道徳科 「こんなときどうする」 2組 体育 「リレーあそび」	第3学年 1組 特別活動 「チームワークを高めよう」 2組 体育 「ポートボール」	第5学年 1組 特活 学級活動(1) 「よりよいチーム作りに向けての計画を立てよう」 2組 体育 「アルティメット」
成果と課題 (○成果 ▲課題)		
○道徳科、特別活動、体育科を通して、他者への声かけや関わり方について繰り返し意識付けされることで、児童の意識も高まりが見られた。 ▲児童のつぶやきや発言に対する教師の言葉がけ(価値付け)や見取りが乏しい。 ▲体育(ゲーム等)で使える語彙を児童が知らない。	○「チームワーク」を意識することや友達と認め合う行動が、クラスの中で見られるようになった。 ○シェアタイムやチームタイムの設定があることで、意見が共有しやすく、振り返りの時間にも活用しやすい。 ▲問題が発生したときの教師の介入について。どこまで児童に委ねるか。	○シェアタイムの設定によって、技能面でアドバイスする姿が見られた。 ▲体育科の技能面を高める時間の確保と、道徳的な価値付けをする時間の確保のバランスが難しい。 ▲学級活動の話し合いでは、合意形成を図るための議題の選定が難しい。
【令和5年度への共通研究課題と検討事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科、特別活動、体育科の教科等を主として、各教科等の特質を踏まえ、共通して、他者との関わり合いや自己へのはたらきかけといった部分に焦点化し、自他を互いに認め合うための力の育成について検討する。 ・体育科においての手だては、「シェアタイム」「チームタイム」等の他者意見を交流したり認めたりする場として継続していく。また、「スキルアップタイム」では、自己肯定感を高めていくための礎として、個人スキルの向上を目指す。 ・教師の言葉がけ(価値付け)や見取り方については要検討する。 ・学級活動における合意形成のプロセスを押さえるとともに、活用していく必要がある。 		